

日本語会話における相互行為分析

◆キーワード

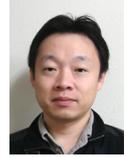
会話分析、相互行為、言語・非言語コミュニケーション、日本語

◆産業界の相談に対応できる分野

日本語教育分野、人工知能分野

留学生センター 准教授

杉浦 秀行



TEL 029-228-8124

FAX 029-228-8124

email sugiura@mx.ibaraki.ac.jp

URL <https://sites.google.com/site/hidesugiuraca/>

一言
アピール

本研究は、ビデオ録画されたデータに基づき、日常会話の中で行われる参加者たちの社会的相互行為がどのように構成されているかということについて、言語的要素のみならず、非言語的要素（視線・表情・身体動作・環境・参加者たちの空間配置 etc）をも分析対象とすることで、包括的な分析を提供できます。

研究概要

本研究で採用される「会話分析（Conversation Analysis）」は1960年代に米国の社会学者たちによって作り上げられた方法論で、人間の社会性が育ち、発達していく最も原初的場である日常会話の中に埋め込まれている様々な社会性を明らかにすることを目標としている。この方法論では、従来の言語学的研究にあるような実験的環境における会話ではなく、ビデオ録画された自然会話を分析対象としている。また、この方法論では、自然会話が言語的要素（文法・音声）のみで成立しているのではなく、参加者たちの視線・表情・身体動作、さらには会話が行われている空間（環境）、その空間における参加者たちの空間配置、その空間にあるモノなど様々な非言語的要素が言語的要素と併用されることで成立しているという事実を鑑み、参加者たちが併用する言語的・非言語的要素を射程に入れた包括的な枠組みで、現実に行われている参加者たちの社会的相互行為を過不足なく記述していくことを試みている。本研究では、とりわけ、日本語会話における相手の意見・評価への同意・非同意がどのように構成されているかについて詳細な記述を試

みている。これまでの研究成果でわかってきたことは、少なくとも日本語の日常会話においては、同意・非同意の強さの調節は必ずしも言語的要素（語彙や文法）でなされているのではなく、同意・非同意を示す言語的要素と併用される非言語的要素がより重要な役割を果たしているということである。具体的には、相手の意見・評価に対して、単に「そう」という応答があったとして、それだけでは同意の強さは判然としない（弱い同意のように聞こえるかもしれない）が、そこに指差しや前傾姿勢、表情が伴って生じることで非常に強い同意として実現されるケースがあるということである。また、同意と非同意は対照的な社会的行為であるが、その対照性はそれらの行為が実現される際の参加者の視線に呼応していることも明らかになっている。具体的には、同意とは対照的に、非同意では、非同意の発話が始まる直前または開始された直後に（非同意の）相手に向けた視線を逸らすことが明らかになっている。今後の研究では、同意・非同意の発話の構成（文形式）や、数ある非言語的要素が、同意・非同意の発話の構成との関係でそれぞれどのようなタイミングで組み込まれていくかについて分析をさらに深めていきたいと考えている。

何に
使える？

日本語教育における会話教材の作成（特に現在の会話教材で見過ごされがちな、相槌のタイミングや非言語的要素についての指導を組み入れた教材の作成、会話分析の知見を活かしたよりリアルな会話の SCRIPT 作成）に貢献できます。また、将来的には、介護用ロボットのための自然言語処理の発展のための活用も期待できます。